

各校での非認知能力を育む取り組み 文化祭の意見作文発表会 太子中



No.8

中学校では、全生徒が夏休みに日常生活で感じたことや考えたことを作文としてまとめ、2学期に入ってからクラスメートの前で発表する取り組みがある。クラス発表で代表を決めた後、学年代表を決める発表会を学年ごとに行った。学年代表は文化祭で全校生徒の前で発表を行った。

つながる系



伝える力 (気持ち・意見を)
受け入れる力 (相手を)
協働する力

自分と向き合う系



自己調整力
(自分を調整する力)
あきらめない力
(粘り強さ)

自分を高める系



目標を持つ力
(夢・目標を持つ)
挑む力
(やってみる・挑戦)

◇ギミック (工夫したところ)

「自分の考えをまとめて文章にし、自分の意見としてみんなに発信する」という言語能力と発信力の向上に取り組んでいる。

◇効果：家族のこと、友達のこと、いじめ問題や戦争についてなど、身のまわりで起こっていることを「自分事」として捉えるよう意識づけをしている。全校生徒の前で発表することは勇気のあることであり、全員が発表することで、「挑む力」「伝える力」「あきらめない力」を育むと考える。また、発表する緊張感を誰しもが経験することで、「受け入れる力」「協働する力」が育まれ、発表を聞く態度の育成にもつながるとも考える。



やってみよう！ 町立幼稚園

運動会を経験した子どもたちは、達成感を味わい、成功したことでさらに自信がついてきています。

現在、各学年「フラフープ」や「竹馬」「縄跳び」へと遊びが移行しながら、子どもたち自ら遊びたいことを選び、挑戦する姿が見られています。日々の積み重ねが子どもたちの姿に変化をもたらせます。子どもたち自身も自分の姿の変化に気付いています。「ちょっとできるようになった」「あそこの線までやってみよう」「あぁ悔しいー」「今度こそは・・・」「やったーできた」「できるって たのしいー」その時その時、色々な感情を味わっています。

とにかく、周りの大人は頑張っていることを認め、褒め、子どもたちが思わずやってみたくくなるような言葉がけやスモールステップの目標を持てるようにすることを大切にしています。目標を達成することはもちろん大切なことですが、**達成するまでのプロセスが何より大切と感じています。**

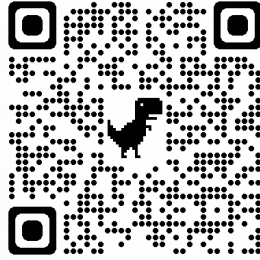


徳留宏紀さん
太子町非認知能力アドバイザー

みんなで取り組むからこそ、他者への敬意尊重も生まれますね！お互いが一緒に高め合える関係になってますね。引き続き、達成するまでのプロセスを非認知能力のレンズで見取って価値づけしていきましょう。

裏面もご覧ください！

町立幼稚園の幼児教育と非認知能力について 講演会を開催しました。



11月26日（土）太子町立幼稚園で土曜参観がおこなわれました。普段の幼児教育を保護者の方にみていただき、どの子ども生き生きと楽しそうに取り組んでいました。

参観後におこなわれたのが、太子町非認知能力アドバイザーの徳留さんによる講演会。太子町教育委員会から幼小中一貫教育の説明をおこない、その後「幼児期こそ育みたい非認知能力」として講演会がございました。

講演会にご参加くださりました保護者の方の感想を一部紹介します。

- ・園での環境を考えると町立幼稚園に通えていること、また、それが小中学校と連携されていることに安心感も感じました。
- ・非認知能力という言葉を知りましたが、子供の成長にとってとても大切なことだと知りました。本日の講演は子供との関わり方を見直す良い機会になりました。

その他にも「さらに具体的な取り組みを聞きたい」という具体的な日々の子育てにおける実践例を学びたいという声もいただき、今後の取り組みの参考となるご意見もありました。

当日の講演を記録した映像を上
のQRコードをスマホカメラなどで読
み取っていただくと、ご覧いただく
ことができます。

1月からは広報「たいし」で 幼小中一貫教育の今をご紹介します！

2学期より太子町立の学校園で実践されている非認知能力を伸ばす取り組みを本通信を通して発信してきました。日々の教育活動を学校園の枠を超えて知っていただき、太子町の公教育についての理解を深めていただくきっかけとなれば幸いです。

2学期に8号発行いたしました本通信ですが、1月からは太子町広報誌「広報たいし」にて連載することが決まりました。

広報誌への掲載に伴い、本通信は一旦終了となります。日々、学校園ではお子様のために何ができるのか、どういった力を伸ばしたらよいか、など考えこれからも教育活動を実践していきます。

今後とも太子町の公教育をよろしくお願いたします。



画像はイメージ
1月号から掲載予定

2022
12
No.577